

「H29 箕島ほうれんそう新規就農者研修」始まる

【平成 29 年6月 15 日掲載】

福山市箕島地域は、ほうれんそうを中心とした野菜産地として発展してきましたが、生産者の高齢化が進み、産地の衰退が懸念されています。

そこで、箕島園芸組合（組合長：楠隆雄（くすたかお）、組合員 27 名）では、新たな担い手を確保するため、平成 20 年に箕島地区担い手育成協議会（楠隆雄 会長、構成機関：JA、市、県）を設立し、研修生を募集してきました。研修期間は 1 年で、これまでに受講者 6 名が就農し、ほうれんそうを生産・出荷しています。

今年度は、福山市在住の浅利安紀（あさりやすのり）さんが 4 月から研修を開始しています。浅利さんは研修前、農機具の修理・販売を行う会社に勤務しており、担当する農家と接していくうちに、「自分でも農業をやりたい。」という思いが強くなり、箕島ほうれんそう新規就農者研修に応募しました。

ほうれんそうの栽培は 8 月下旬から始まるため、現在は、なすの栽培を中心に、先進農家や研修修了生のもとで研修を受けています。研修を始めて 2 か月が経過し、浅利さんは、「農業は天候に左右され、病害虫の発生など、ものを作る大変さを痛感した。今は市、JA 主催の講習会にも積極的に参加し、栽培技術の習得に励んでおり、地域の方からも優しく、親切に教えてもらっている。今後は、ほうれんそうの栽培と農機具修理の技術を生かして、箕島地域の農業振興に貢献したい。」と意欲を見せていました。



【なすの栽培技術を学ぶ浅利さん】